

装飾古墳館 企画展「熊本地震と装飾古墳」のご案内



平成30年度企画展

# 熊本地震と装飾古墳

平成31年1月19日(土) ▶ 3月3日(日)



熊本県立装飾古墳館

開館時間：午前9時30分～午後5時15分  
休館日：月曜日（祝日の場合は翌日）  
観覧料：一般420（290）円 大学生260（180）円  
高校生以下無料 ※かつこ内は20名以上の団体料金



くまもとの  
装飾古墳

## 「記憶」せずに「記録」する

熊本県に未曾有の被害をもたらした「平成28年熊本地震」では、装飾古墳も多く被災しました。現在、全国からの支援もいただきながら、一日も早い復元・修復を目指して様々な取組が進んでいます。

そしてその取組の中で、被災した状況の記録、被災する前の記録がとても大切であることが明らかになってきました。

被災した状況の記録、被災する前の記録は、文化財が破壊された原因をさぐる基礎資料です。装飾古墳の石室でどの部分が傷んだのか、壊れた石材がどこに落ちていたのか、高精度の記録ほど、地震の揺れと装飾古墳の傷みを生々しく結びつけます。そして、復元・修復に取り組む人たちの安全を守り、どの部分が更に壊れるのか、どこを直すとよいか、どのように補強するとよいかの確に復元・修復の道筋を指し示してくれるのです。

それだけではありません。記録は後世の人々を励まし、喜ばせる力も持っていました。嘉島町にある井寺古墳は、地震により石室が崩れ、以来、人が立ち入ることができない状況です。その井寺古墳の、江戸時代に発見された時の記録が、「平成28年熊本地震」をきっかけに発見されました。熊本被災史料レスキューネットワークの皆さんの発見は、井寺古墳の石室の詳細な記録、熊本藩の保護対策の記録を現在によみがえらせ、復元・修復に取り組む人々を励ましているのです。

国立民族学博物館初代館長である梅棹忠夫さんの言葉に「記憶せずに記録する」というものがあります。

「記憶」は年月とともに薄れていきますが、「記録」はいくつもの時代をこえて私たちに多くのことを伝え、励ましてくれます。

本企画展では、記録することの大切さをこの地震と装飾古墳の関わりの中から考えていきます。

### 熊本県立 装飾古墳館

開館時間：午前9時30分～午後5時15分

休館日：月曜日（祝日の場合は翌日）

観覧料：一般420（290）円 大学生260（180）円

高校生以下無料 ※かつこ内は20名以上の団体料金

〒861-0561 熊本県山鹿市鹿央町岩原3085番地

Tel：0968-36-2151 Fax：0968-36-2120

http://www.kofunkan.pref.kumamoto.jp/



## 集中講座

第一回は、江戸時代に熊本藩士が記録した史料（有馬家文書）と、史学そして考古学がタッグを組んだ井寺古墳の調査について、第二回では、最新3D技術を用いた古墳の被害状況の記録と復旧調査について、それぞれ被災した装飾古墳の復旧に携わっている方々にご講演いただきます。

1月19日（土）午後1時30分

熊本地震と装飾古墳1  
井寺古墳を記録する人たち

三澤 純（熊本大学）

「新出有馬家文書の概要と  
井寺古墳関係資料発見の意味」

橋口剛士（嘉島町教育委員会）

「有馬家文書でわかる  
井寺古墳のあれこれ」

2月2日（土）午後1時30分

熊本地震と装飾古墳2  
最新技術で記録する人たち

越知睦和（嘉島町教育委員会  
佐賀県から復旧・復興調査支援）

「井寺古墳復旧における  
基礎調査成果報告」

石松 直（玉名市教育委員会）

「被災古墳における  
復旧としてのSfM-MVS」